

Prediction of liver stiffness for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C patients on interferon-based anti-viral therapy

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2014-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 成田, 諭隆 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001632

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2294 号

Prediction of liver stiffness for hepatocellular carcinoma in chronic hepatitis C patients on interferon-based anti-viral therapy

(インターフェロン治療を施行した C 型慢性肝炎患者の肝硬度測定による肝発癌予測)

成田 諭隆 (なりた ゆたか)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、インターフェロン治療を施行した C 型慢性肝炎患者における肝発癌リスクについて検討した。肝硬度と血小板数は、共に肝線維化の代替マーカーである。すなわち、発癌リスクとして肝硬度の上昇と血小板数の低下は肝線維化を示していると考えられた。今回の検討では肝硬度の上昇と血小板数の低下を有する例は完全には一致していなかった。つまり、これらのマーカーが相補的に発癌リスクを有する肝線維化進行例を拾い上げていると考えられた。一方、本検討では組織学的な肝線維化は有意な因子ではなかった。この理由は生検材料の大きさに制限を設けなかったため、sampling error が生じたことが原因と推測された。このような肝生検の欠点を補う意味でも FibroScan を用いた肝硬度測定は臨床上有用な検査と考えられた。本検討では $LSM \geq 14.0 \text{ kPa}$ 、non-SVR、血小板数 < 14.0 万が独立した危険因子として抽出されたが、層別化解析でこの 3 因子をいずれも持たないグループでの発癌は estimation cohort、validation cohort のどちらでも 0% だった。つまり、インターフェロン治療後の C 型慢性肝炎患者の発癌予測をするうえで重要な肝硬度測定と組み合わせるべきリスク因子を初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。